

## 平成20年度センター活動報告

### 1. センター運営委員会及びセンター紀要編集委員会

#### (1) センター運営委員会

平成20年度第1回特別支援教育実践研究センター運営委員会が平成20年7月9日(木)に開催され、平成19年度事業報告、同決算、平成20年度事業計画、同予算、教育相談システムの内規等について協議された。平成20年4月より特別支援教育コース教員のうち3名(土谷良巳・教授、村中智彦・講師、道城裕貴・助教)がセンター兼務教員、7名(我妻敏博・教授、大庭重治・教授、齋藤一雄・教授、笠原芳隆・准教授、河合康・准教授、葉石光一・准教授、藤井和子・講師)がセンター研究員として委嘱された旨報告があった。また、センターの玄関ロビーや総合検査室等の改修工事、センター紀要の名称を「上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要」と変更した旨報告があった。

#### (2) センター紀要編集委員会

平成20年度第1回特別支援教育実践研究センター紀要編集委員会が平成20年7月9日(木)に開催され、上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要第15巻、及び同編集幹事(道城裕貴・助教)について協議された。

### 2. 平成20年度の教育相談、教育臨床活動

平成20年4月から平成21年3月までの教育相談実績は、以下の表A、表B、表Cに示す通りである。なお、表には特別支援教育コースの臨床実習として実施した教育相談、授業とは別に特別支援教育コースの教員による個別の教育相談、特別支援教育コースの教員、及び特別支援教育コースの大学院生が研究のために実施した教育相談が含まれている。

#### (1) 年間相談件数(表A)

表Aには障害種別ごとの相談件数が示してある。表中の新規相談とは平成20年度中に新たに相談を開始した件数であり、相談件数とは平成20年度以前から相談を継続している件数である。新規相談の件数は14件であり、継続相談は44件で合計58件であった。平成18年度は58件、平成19年度は63件であり、相談件数は維持されていると言える。障害種別で見ると、知的障害・ダウン症が18件、難聴・聾が7件、言語障害が8件、肢体不自由・重症心身障害が8件と多い。知的障害・ダウン症が増えたことが昨年度と異なる傾向である。

#### (2) 年間相談・指導回数(表B)

表Bには相談・指導の内容ごとの延べ指導回数を示してある。平成20年度の延べ指導回数は全部で850回であった。平成18年度は673回、平成19年度は698回であることから、年間相談・指導回数は大幅に増加したと言える。

#### (3) 年間相談・指導時間(表C)

表Cには相談・指導ごとの延べ指導時間が示してある。年間延べ指導時間は合計で1269.0時間であった。その内、検査関係では初期相談0時間、定期相談36.5時間であり、継続指導が1232.5時間であった。延べ指導時間数について平成18年度は889.5時間、平成19年度は1065.5時間であることから、年間相談・指導時間も年間相談・指導回数とともに近年増加してきて

いる。継続指導に関して延べ指導時間を延べ指導回数で割ると1.37時間となり、1回の相談・指導時間は1時間半弱である。

### 3. 研修活動

#### (1) センターセミナー

今年度は、特別支援教育コースによる「平成18～20年度特別教育研究経費(教育改革)関連事業:特別支援教育のための大学院における教員養成・研修システムの開発」事業(事業実施責任者:大庭重治特別支援教育コース教授)の最終年度であることから、同事業と連携して2回の講演および同事業最終報告会における講演をセンターセミナーとして開催した。

##### ◇講演会

日時 平成20年7月26日(土) 午後3時～5時

講演者 清水貞夫(宮城教育大学名誉教授・尚綱学院大学講師)

テーマ インクルージョンはどこに向かうか

参加者 70名

##### ◇講演会

日時 平成20年11月30日(土) 午後2時～4時

講演者 原 仁(横浜市中部地域療育センター所長)

テーマ 発達障害児への療育支援

参加者 109名

##### ◇最終報告会

日時 平成21年3月8日(日) 午前10時～午後3時

記念講演 午前10時～12時

講演者 海津亜希子(国立特別支援教育総合研究所主任研究員)

テーマ 学び方の異なる子どもの理解と支援

シンポジウム 午後1時～3時

テーマ 特別支援教育の展開—附属学校園における実践的共同研究の成果—

講 評 海津亜希子(国立特別支援教育総合研究所主任研究員)

歌川 孝(上越市教育委員会・前附属小学校副校長)

参加者 94名

#### (2) 各種研究会・講習会

平成20年度に本センターを会場に開催された研究会・講習会等は、以下の通りである。

◇上越地区特別支援教育懇談会

◇新潟県認定講習会

◇平成20年度附属学校初任者研修会

◇上越自立活動研修会(隔月)

◇上越言語障害研究会

また、上越教育大学を会場にして平成20年12月13日(土)に開催された「特別支援教育フォーラム2008」(上越教育大学地域連携推進室主催)に関して、上越教育大学心理教育相談室との共同企画により、コーディネーターを務めた。

### 4. 地域支援・連携活動

(1) 新潟県(3名)から研究生を受け入れた。研究生にはそれぞれ指導教員がつき、それぞれの研修テーマにもとづいて指

導を受けるとともに、特別支援教育コースの授業の聴講、臨床指導への参加などを行った。

(2) 地域支援活動

- ◇新潟県立高田養護学校評議員
- ◇新潟県立上越養護学校評議員
- ◇新潟県立はまなす養護学校評議員
- ◇新潟県立盲学校評議員
- ◇新潟県特別支援教育体制推進事業中越地区専門家チーム構成員
- ◇新潟県教育職員認定講習会講師
- ◇新潟県初任者研修講師
- ◇新潟県12年研修講師
- ◇新潟県内特別支援学校教職員研修会講師
- ◇新潟県内特別支援学級教職員研修会講師
- ◇上越市就学指導委員会委員
- ◇上越市幼児ことばの相談室講師
- ◇上越特別支援教育研究会顧問・講師
- ◇上越障害者福祉推進連携協議会（会長、部会長、委員）
- ◇上越市自立支援協議会専門部会委員
- ◇妙高市障害児通園事業「ひばり園」職員研修講師
- ◇妙高市就学指導委員会委員
- ◇柏崎市早期療育事業講師
- ◇柏崎市たんぽぽプレー教室助言者
- ◇糸魚川「めだか園」職員研修講師
- ◇富山県教育職員認定講習会講師
- ◇長野県教育職員認定講習会講師
- ◇川崎市教育委員会専門員
- ◇川崎市総合教育センター専門員
- ◇青年の休日を楽しむ会（ナディアの会）発起人・事務局

(3) 地域連携活動

- ◇新潟県立長岡聾学校との連携による「きこえ相談」

5. 刊行物

上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要第15巻を平成21年3月に刊行した。

6. センターの利用状況

本センターは特別支援教育コースと一体となって、主として特別支援教育コースの大学院生に対して、実践的・臨床的な活動の場と機会を提供している。教育臨床実習、実践場面分析演習など、幅広くかつ活発に利用されている。

平成20年度の利用状況は以下の通りであった。

(1) 教育臨床実習

特別支援教育コースでは、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、重複障害、言語障害、発達障害の8障害に関する「教育臨床実習」及び「応用教育臨床実習」の授業科目を設けているが、その多くを前述の教育相談活動と関連づけて本センターで実施しており、週あたり合計28コマの教育臨床実習の授業が組まれている。

この臨床実習では、本センターに来所する障害のある子どもの検査・教育的診断、教育プログラムの作成、指導、評価を実習させることにより、障害のある子どもの検査・教育的診

断法、指導法、評価法に関する原理と技術を指導している。また、個別の臨床の都度、カンファレンスを実施し、VTR記録等を用いた臨床実践場面の分析やコンピューターによるデータの処理・管理についても指導している。併せて、言語援助機器や視覚教材、コンピューターを用いた指導法についても指導している。

(2) 教育相談

地域の障害のある子どもの教育診断、発達援助、日常生活の指導・援助について、保護者や学校等の担当者などを対象に、面接相談や各種検査、継続指導、経過観察を行っている。この教育相談活動は、特別支援教育コースの大学院生を含めたチームにより、特別支援教育コースに所属する教員の指導のもとに、本センターのプレイルーム、行動観察教室、各障害種別指導法、検査室、集中制御による行動観察システムを活用して、発達、心理、知覚・認知、運動、コミュニケーション・言語、視覚、聴覚などの検査から総合的な教育診断を行い、診断結果に基づいて障害のある子どもの早期発見と療育指導などを行い、また、障害のある子どもに関わる人々の環境の調整、地域の医療・相談・教育機関への紹介やケースワークも実施している。

また、新潟県立長岡聾学校と連携し、本センターにおいて「きこえ相談」を実施している。

(3) 演習・実習授業

本学大学院の授業科目である「実践場面分析演習：特別支援教育」では、地域の養護学校において授業を実施させていただき、本センターのVTR記録等を用いた臨床実践場面の分析やコンピューターによるデータの処理を活用して、授業分析にあたっている。

また、授業科目「障害児心理・生理検査法」では、本センターにある教材や検査用具、施設設備を活用して、多様な検査法や心理学的実験を実施している。

さらに、センターの教材開発室を活用して、臨床実習や実践場面分析演習を通して、必要な教材・教具の開発・作成に関する実習指導を実施している。

(4) 講義・演習・センター

センター研修室に視聴覚機器を整備し、またデータ処理室のコンピューターによるデータ処理システムを活用して、特別支援教育研究法、情緒障害教育総論、重複障害教育総論、言語障害教育総論等の講義を実施した。併せてカンファレンス室を活用し、臨床実習、実践場面分析演習、特別支援教育研究セミナー等の授業を実施した。

7. 特別教育研究経費（教育改革）事業

本センターは特別支援教育コースと一体となって、平成20年度特別教育研究経費（教育改革）による「特別支援教育のための大学院における教員養成・研修システムの開発－障害児教育実践センター及び附属学校の活用を通して－」（事業実施責任者：大庭重治特別支援教育コース教授）を実施した。この事業は特別支援教育実践研究センター及び附属学校園を活用して、臨床教育に重点をおいた特別支援教育に関わる教員養成・研修システムを開発することを目的として、平成18年度～20年度の3年改革で実施されたもので、今年度は最終年度であった。

## 8. その他

### (1) 国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会

平成20年は例年のように特殊教育学会の際ではなく、東京学芸大学において平成20年7月12日、13日に開催され、センター兼務教員である道城裕貴助教が参加した。文部科学省科学研究補助費基盤研究B「小学校教員養成プログラムにおける特別支援教育スタンダードの開発—9UCプロジェクト—」について意見交換がなされた。

### (2) 広報活動

本センターの概要を、本学のホームページに掲載し、適宜更新している。

特別支援教育実践研究センター  
道城裕貴

### 平成20年度特別支援教育実践研究センター構成員

(平成20年4月1日現在)

#### センター兼務教員

土谷良巳\* 村中智彦 道城裕貴

#### センター研究員

我妻敏博 大庭重治 齋藤一雄 笠原芳隆 河合 康

葉石光一 藤井和子

#### 特別支援教育事業推進コーディネーター

加藤哲則 細谷一博 嶋田沙織

\*センター長

### 平成20年度特別支援教育実践研究センター運営委員

土谷良巳 特別支援教育実践研究センター長\*\*

村中智彦 特別支援教育実践研究センター\*\*

道城裕貴 特別支援教育実践研究センター\*\*

齋藤一雄 特別支援教育コース

宮下敏恵 心理教育相談室

中道公壽 学務部長

\*\*特別支援教育実践研究センター紀要編集委員

(委員長：土谷良巳)